

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「つくろう あすへの わ」（心と体の調和・仲間とのつながりの輪・自分らしさの我 の三つの「わ」）を大切にしながら、「未来を生きる主人公を育てる」ことを学校教育目標とする。 支援学校における地域の中核としての役割を担い、「未来志向型支援学校」として新たなニーズにも対応する知的障がい児童生徒への支援教育をリードしていく学校をめざす。 1 「一人ひとりの心と体を大切にし、将来に向けたステップを作る力を育む学校」 2 「関係機関と連携し、地域の中で役割を担う学校」 3 「自ら前向きに変わっていこうとする力を持つ学校」

2 中期的目標

●「学校経営推進費」を受けた年度（R5） 【事業名】 「知的障がいのある生徒の農福連携（ぶどう栽培における職業教育・キャリア教育）」 1 生徒・教職員一人ひとりの心と体を大切にする学校づくり （1）危機管理体制の充実（防犯・防災教育の計画的な指導、保護者・地域との連携） （2）生徒の健康維持・管理（学校保健の充実） （3）生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力しあえる関係の構築（人権研修年間3回・伝達研修の充実、個人情報適正管理） （4）教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化が図れる学校運営（働き方改革）。 2 生徒の将来に向けた力をはぐくむ学校づくり （1）教育課程・シラバスの充実、個別的教育支援計画・個別の指導計画の活用による指導支援の充実 （2）生徒の主体的な意欲を引き出す授業力の向上（全校公開授業年2回・研究協議の充実） （3）生徒一人ひとりのニーズに応じた自立活動の充実。ココカラ学習の充実。多職種連携による指導支援の充実 （4）キャリア教育を全校一貫として実施（キャリアコーディネーターの活用、交流クラスの充実） （5）情報活用能力の育成 （6）社会生活・職業生活に必要な力の習得をめざした職業教育の充実 （7）農福連携による校内でのぶどう栽培の実施、及び地域の農家でのぶどう栽培実習の実施 （8）一人ひとりに応じたよりよい進路の実現 ＊卒業時に社会から孤立する環境をつくらない、不登校傾向の生徒の進路決定率を向上させる （9）進路情報の充実（企業・訓練校・事業所等との連携、先輩の体験を聞く会、進路講演会） 3 関係機関と連携し、地域の中で役割を担う学校づくり （1）学校情報発信力の向上 （2）地域における支援教育のリーダーとしての活動の充実 （3）地域リソースを活用した教育活動による、児童生徒の社会参加・社会貢献意識の向上 （4）学校間交流の充実 4 自ら前向きに変わっていこうとする力を持つ学校づくり （1）ICT 機器の効果的な活用 （2）学校運営を推進していけるミドルリーダーの育成 （3）経験年数が少ない教員の指導力の育成、中堅層・ベテラン層のマネジメント力の向上（校内研修、外部研修）
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年10月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○保護者 26 項目、教職員 47 項目でアンケート実施（肯定：A よくあてはまる、B あてはまる、否定：C あまりあてはまらない、D あてはまらない、不明:E わからない）回答率:保護者 58% [33%]、教職員 100% [100%] ○保護者 23 項目、教職員 44 項目でアンケート実施（肯定：A よくあてはまる、B あてはまる、否定：C あまりあてはまらない、D あてはまらない、不明:E わからない） ○フォーム作成ツールに加え、未回答の保護者に紙ベースで回答を依頼したことで、保護者向けアンケートの回答率が向上。 【心と体を大切にする学校】 保護者向けアンケート肯定評価について、「防災訓練や学習等の備え」が 94%で 1%減少、「子どもの人権の尊重」が 91%で変化なし。教員向けアンケートともほぼ同じ。引き続き安全対策や人権尊重等、実態把握に努め、心と体を大切にする学校づくりに取り組む。 【将来に向けた力をはぐくむ学校】 教員向けアンケート肯定評価について、「シラバス、指導案、授業記録の蓄積と授業改善」が 72%で 6%減少。保護者向けアンケート肯定評価「生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てる」が 90%で 1%向上。教員向けアンケートともほぼ同じ。教員向けアンケート「小中高一貫性のあるキャリア教育」の肯定率 60%が 6%減少したのに対し、保護者向けは 87%と 6%向上しており、昨年度よりもさらに乖離が広がった。保護者との情報共有により、教員の自己肯定感の向上に努めるとともに、より効果的なキャリア教育に取り組む。 【地域の中で役割を担う学校】 保護者向けアンケート肯定評価について、「教育情報提供の努力」が 88%と教員向けアンケートとほぼ同じ。肯定的回答率は高いものの、保護者向けアンケートの回答率が低調であることから、一層周知の工夫が必要。	【第1回 6/24】 ・大雨時に大乗川が増水して危険な状況になることが増えている。かつては畑や田んぼが広がっていたが、開発が進んだことで水が貯留される場所が減って、一気に増水しやすくなっているようである。児童生徒の学習の機会を奪うわけにはいかないため、安易に学校を休業することはできないと思うが、必要に応じて各家庭で自宅待機の判断をしてもらうなど、危機感を持った対応が求められる。 ・SPS 認証を受ける際は学校一丸となって取組みを進めると思うが、認証を受けた数年後に教員が入れ替わると安全教育への熱意が薄れ、形骸化する学校もあると聞いている。そこに注意して組織的に取組みを進めてもらいたい。 ・自立活動の指導についても、今後の取組みに期待している。 【第2回 11/19】 ・西成区や住之江区は「しごと博物館」という小・中学校の子どもに仕事について知ってもらう取組みを行っている。地域の中学校でも近隣の会社等で実習を行うなど自分の将来をイメージする機会を作っている。参考にしてほしい。 ・羽曳野市小学校では互いに交流を深めるほか、中学校の体験入学も実施している。互いの取組みについて知ることに加えて、卒業後（中学校進学後）の生活に向けて見通しを持つ機会にもなっている。 ・キャリア教育等の取組みが、キャリア・フロンティアコースに入っているような軽度の生徒向けのものに聞こえる。企業就労が難しい子どもが将来をイメージできるような学びについても実践し、情報共有してほしい。 ・保護者アンケートで、マチコミ配信による回答依頼に加えて、連絡帳でも回答をお願いするなど工夫することで回答率が向上したのは良いこと。90%を超える回答率の学校もあるので、今後も工夫を続けるべき。 ・教職員アンケートで、「校長・准校長のリーダーシップ」「適性・能力に応じた校内人事」「人材育成」に関する項目で肯定的意見が減少したことについては、意見が言いやすい環境であると捉えることもできる。分析して改善策を考えることに加え、教職員同

府立西浦支援学校（高等部）

【前向きに変わる力を持つ学校】 教員向けアンケート結果肯定評価について、「ICT 機器の各教科の授業などでの活用」が 72%で 10%減少。教員が自信を持って ICT 機器を効果的に活用していると感じられるよう今後も検討が必要。	士の対話も大切だと思う。 【第 3 回 2/20】 ・職業教育からキャリア教育へと発展させて、学校全体や地域まで巻き込んで取組みを続けてほしい。 ・現在の福祉制度は利用者が実際に何時間利用したかを問われるため、事業を継続できない所も出てきている。不登校だった方でも「行きたい」と思ったときに自由に受け入れられて働くことができる福祉制度になればよいのだが現状はそうではない。 ・SPS 認証を受けることができるのは素晴らしいこと。安心して過ごせる学校づくりを継続させることが大切。 ・保護者への進路に関わる情報発信が不足している印象。小・中学部に配付する進路の手引きにも事業所一覧をつけるなど、早期から見学に行く機会を設けてはどうか。 ・学習支援連絡網での発信が多すぎて保護者が情報を正しく処理できていない状況だと考えられる。保護者の情報機器のスキルや配信される情報への興味関心に個人差があることを意識して、発信の方法を検討してほしい。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値] 保:学校教育自己診断保護者肯定率の略 高保:学校教育自己診断高等部保護者肯定率の略 教:学校教育自己診断教職員肯定率の略	自己評価
1 生徒・教職員一人ひとりの心と体を大切に する学校づくり	(1) 危機管理体制の充実	(1) 防犯・防災教育を系統的に整理し、組織的な学校安全体制を整備する。保護者と連携した実践的な訓練の実施	(1) SPS（セーフティプロモーションスクール）認証に向け、中心となる組織の決定を行う。	(1) SPS の PT を設立し、避難訓練等の学校安全体制の見直しを図った。8 月に SPS の研修を実施。同月に学校安全先進地域の宮城県石巻市や兵庫県小野市等を視察。SPS 認証に向けて、12 月に申請書の送付済み。1 月に最終実地審査、年度末に認証予定。 (◎)
	(2) 生徒の健康維持・管理	(2) 児童生徒が自ら心身の健康管理に取り組めるために、「学校保健計画」に基づき健康教育に取り組む	(2) 学校における怪我を 50%削減する (394 件)	(2) 昨年度の怪我における保健室来室数を基に、時期や状況の分析を実施。全校集会で怪我防止のためのルール確認及び予防指導を行った。児童生徒会では、怪我予防のポスター作成と掲示を行うとともに、全校をあげて廊下中央線の整備を行った。 305 件 (△)
	(3) 生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力し合える関係の構築	(3) ア. 教員の人権意識向上のため、グループワークを含めた悉皆研修を実施。人権委員会を開催し、引き続きいじめの未然防止に努める。 イ. 個人情報の適正な管理に努め、個人情報の流出を防止する	(3) ア. 人権研修 3 回実施 「人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」 教：93%以上 [89%] イ. 個人情報流出 0 件	(3) ア. 4 月にエンゲイジメントカードを用いた研修、7 月に自立活動の指導についての研修、8 月には、SPS に関する研修を通して、人権について考える時間を設けるなど予定どおり実施した。 肯定的評価 教：92% (○) イ. 0 件 (○)
	(4) 教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化が図れる学校運営	(4) ア. 令和 7 年度に向けて校務分掌の見直し等を行い、業務の平準化を図る。 イ. 時間外勤務を減らす取組みを実施 会議や打ち合わせの効率化を進め、休憩時間を確保する	(4) ア. 校務分掌の改編案を 12 月までに提示し、3 月に決定する。 イ. 時間外労働の削減 80 時間超え 0 人 [1 人] 45 時間超え 100 人 [139 人]	(4) ア. 次年度よりチーム制を改編し、業務量の縮減、平準化を目的とした改編を実施する。 (○) イ. 1 / 1 現在において 80 時間越え 5 人【1 人】 45 時間越え 137 人【115 人】 (△)
2 生徒の将来に向けた力を はぐく	(1) 教育課程・シラバスの充実、個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用による指導支援の充実	(1) ア. 令和 7 年度に向け教育課程の改編を行い、教育活動の充実を図る。 イ. 授業力、自立活動の指導力の向上等と連動し、各計画の作成及び活用実践力の向上をめざす。	(1) ア. 新たな教育課程を 2 月までに決定する。 イ. 自己診断（教員）「マニュアルに基づき、作成、評価も含めて適正に運用されている」 個別の教育支援計画 90% [88%] 個別の指導計画 90% [83%]	(1) ア. 11 月の職員会議で原案を報告、1 月の運営会議で調整案を報告。次年度に向けて準備中。 (○) イ. 個別の指導計画における自立活動の目標を授業・登下校指導・給食前後指導の 3 つに分けて設定し、個別の教育支援計画との連携を深め、児童・生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導が可能となっている。 肯定的評価 教：85%。 (△) 肯定的評価 教：84%。 (△)

府立西浦支援学校（高等部）

む 学 校 づ く り	（２） 生徒の主体的な意欲を引き出す授業力向上	（２） ア．全校公開授業及び研究協議の充実、学部を越えた授業見学・意見交換等による授業力の向上 イ．外部研修の成果の伝達・共有の充実	（２） ア．全校公開授業及び研究授業を年２回継続実施 自己診断（教員）「シラバス、指導案、授業記録を蓄積し常に授業改善に取り組んでいる」85%〔78%〕 イ．自己診断（教員）「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている」78%〔72%〕	（２） ア．７・１月に自立活動の公開授業を実施。小グループでの意見交換を通して、理解を深める機会となった。 肯定的評価 教：72%。 （△） イ．オンライン上での資料の共有、連絡用スライドや便り、伝達研修で研修内容の発信、共有を図っている。学校安全関連については16回の視察結果の共有を行った。 肯定的評価 教：69%。 （△）
	（３） 生徒一人ひとりのニーズに応じた自立活動の充実。ココカラ学習の充実。多職種連携による指導支援の充実	（３） ア．支援チームと連携した教員が相談しやすい環境を整え、指導内容や指導方法・教科学習の充実を図る イ．ココカラ学習を教科横断的に実施 多職種連携によるココカラ学習の充実	（３） ア．自己診断（教員）「自立活動の指導に当たり、児童生徒が興味を持って主体的に取り組めるよう工夫している」85%〔82%〕 イ．ココカラウィーク年３回実施を継続 保護者向け学習会の開催 年２回（０回）	（３） ア．現在の自立活動について体制や課題についてアンケートを実施。結果に基づき次年度の指導体制を決定した。専門人材を活用し、教員の専門性向上に努めた。 肯定的評価 教：84%。 （△） イ．年３回実施。各クラスにおいてポスター掲示を行うとともに、教職員にはペーパーにてねらいや指導方法を共有した。小学部では保護者向け学習会を１回実施。 （△）
	（４） キャリア教育を全校一貫として実施	（４） キャリアプランニングマトリクスを基にキャリア教育を意識した授業の実施 ぶどう栽培や水耕栽培等、小中高の系統立てた取り組み内容を決定し、各部での共有と保護者への周知を図り、令和７年度から本格実施する	（４） 自己診断（教員）「小中高一貫性のあるキャリア教育を行っている」75%〔66%〕	（４） ぶどう栽培や水耕栽培の授業を実践しながら、系統立てた取り組み内容を調整中である。決定次第、各学部で共有し、保護者へ周知したうえで、本格的に実施する。 肯定的評価 教：60%。 （△）
	（５） 情報活用能力の育成	（５） 情報モラルの視点を取り入れた授業を各教科において実施 保護者への啓発	（５） 児童生徒・保護者向け情報モラルチェックシートの実施 年２回（０回）	（５） 情報モラルチェックシートを２・３学期に２回配付。セルフチェックを促した。２月に外部講師を呼んで生徒・保護者向けに情報モラル講習を実施した。 （◎）
	（６） 社会生活・職業生活に必要な力の習得をめざした職業教育の充実	（６） キャリアフロンティアコースサポートチームのメンバーを、校長准校長による指名制に変更し、授業主担者のバックアップの充実とともに内容の充実をめざす	（６） 年間を通じて、ぶどう栽培を取り入れたカリキュラムを編成して取り組む。 喫茶ルームの開店回数をＲ５年度より増やし、生徒の接客経験回数を積み重ねる。 開店回数 年15回（10回）	（６） 年間を通じてぶどう栽培を取り入れたカリキュラムを編成し、様々なぶどう栽培の実習を校内外で実施している。 喫茶ルームは２学期に11回開店し、接客マナーやチームワークが向上した。 （○）
	（７） 農福連携による校内でのぶどう栽培の実施、及び地域の農家でのぶどう栽培実習の実施	（７） 校内におけるぶどう栽培を開始するとともに、地域の農家に出向きぶどう栽培の実習を実施する（大阪公立大学、府立農林水産総合研究所、農業大学校等との連携は継続）	（７） 地域農家での授業内実習（ぶどう栽培）５回実施。〔なし〕 「学校は、特色ある教育活動に取り組んでいる」教：75%以上〔85%〕	（７） 地域農家での授業内実習（ぶどう栽培）を６回、事業所での実習を10回実施した。 肯定的評価 教：67%。 （△）
	（８） 一人ひとりに応じたよりよい進路実現 ＊卒業時に社会から孤立する環境をつくらない、不登校傾向の生徒の進路決定率を向上させる	（８） 進路チームと支援チームが連携し、不登校傾向の生徒の進路実現に向けた支援を充実させる。	（８） 不登校傾向（年100日以上欠席）の生徒の進路決定、もしくは関係機関との関係構築の割合を75%にする。 （Ｒ４：50%、Ｒ５：14%）	（８） 関係機関と連携し卒業後の社会生活を見据えケース会議や各市町村自立支援協議会で情報交換を行った。高等部における連携は12/19。３年における不登校傾向（年100日以上欠席）の生徒の進路決定、もしくは関係機関との関係構築の割合は12月末現在80%である。 （○）

府立西浦支援学校（高等部）

	（９） 進路情報の充実	（９） 生徒が企業・訓練校・事業所を知る機会の充実。「先輩の体験を聞く会」を高等部全学年で実施	（９） 企業・訓練校・事業所の見学もしくは紹介の場を設定。 「先輩の体験を聞く会」を高等部全学年で実施。 年３回（２回）	（９） ５月に企業見学会、９月に企業説明会に参加。１２月に訓練校の見学会を実施予定。「先輩の体験を聞く会」等は、年３回実施（コース生＋希望者：２回、３年：１回）。 （○）
３ 関係 機関 と 連 携 し 、 地 域 の 中 で 役 割 を 担 う 学 校 づ く り	（１） 学校情報発信力の向上 （２） 地域における支援教育のリーダーとしての活動の充実 （３） 地域リソースを活用した教育活動による生徒の社会参加、社会貢献意識の向上 （４） 学校間交流の充実	（１） ホームページ、学習支援連絡網等を活用した情報発信。閲覧回数を増やすため、配付プリントにQRコードを掲示 （２） 地域の小中学校等への訪問又は来校相談等を実施 （３） ア．学校周辺の施設を積極的に活用した教育活動の実施 イ．地域にある施設での清掃学習に取り組むことを通し、生徒の社会貢献意識とともに自己肯定感の向上をめざす （４） 学校間交流（松原高校、美原高校、懐風館高校）を充実させ、互いに尊重し協力する力を育成する	（１） 自己診断（保護者）「HP等の活用も含め、学校の様子を伝える努力をしている」 保：90％〔87％〕 （２） 地域の学校園への訪問又は来校相談等を100回実施〔78回〕 （３） ア．近隣大学と連携した教育活動を各学部１回の実施〔０回〕 イ．近隣施設での清掃学習を10回以上取り組むことを続ける。〔11回〕 「学校は、子どもが社会の一員であることや役割を意識できる教育活動を行っている」 保：85％〔81％〕 （４） 学校間交流を各学年２回以上実施。両校における方針を作成し共有する。 「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」 保：60％〔56％〕	（１） 学校ブログの構成変更やQRコードの活用により、より目的の記事にアクセスしやすくした。ブログにて授業の様子を479回（R5：231回）発信。 肯定的評価 保：88％。 （○） （２） 102回実施。 （○） （３） ア．各学部（小５、中体４，高職業）とも四天王寺大学との授業交流を実施。授業に向けて事前事後学習を複数回実施。次年度以降も継続予定。 （○） イ．LICはびきの４回、公立大学にて３回実施。にしうらしえんマルシェに向けた製品づくりの時間確保のため昨年度より回数は減少。 肯定的評価 高保：82％。（△） （４） ３校と連携をとり、２学期に交流を実施。１校とは２回の交流を実施。他校は作品交流を含め２回実施。 肯定的評価 高保：65％。 （○）
４ 自 ら 前 向 き に 変 わ っ て い こ う と す る 力 を 持 つ 学 校 づ く り	（１） ICT機器の効果的な活用 （２） 学校運営を推進していけるミドルリーダーの育成 （３） 経験年数が少ない教員の指導力の育成、中堅層・ベテラン層の指導力・マネジメント力の向上	（１） 実践先進校に教員を派遣し、活用事例等を収集。継続してICT機器の使用に関する校内研修を実施 （２） 学校運営を牽引する人材のチーフへの起用と育成。他学部交流研修の実施 （３） ア．研究授業の参観及びメンター会議や初任者の振り返り会の充実 イ．職層に応じた人材育成	（１） 「ICT機器を効果的に活用している」 教:85%以上〔82%〕 （２） 「メンター制など人材育成に関する校内支援体制ができている。」 教 83%〔78%〕 （３） ア．「メンター制など人材育成に関する校内支援体制ができている。」 教 83%〔78%〕 イ．「教職員の適性・能力に応じた校内人事が行われ、よく機能している」 教：60%〔58%〕	（１） ７月の教材研究会にて情報部が出展を行い、学習支援クラウドサービスの授業での活用事例を紹介し、教員が体験する機会を設けた。８月に思斉支援学校に教員を派遣し、情報を収集したうえで、本校の在り方について検討中。書面にて伝達講習を実施。 肯定的評価 教：72％。 （△） （２） 今年度は30～40代の教員８人を新たに主任やチーム長に配置した。面談を通じ、進捗状況の確認や助言を行った。 肯定的評価 教：68％。 （△） （３） ア．初任者に対し、７月にメンター相談、振り返り会を実施。初任者に対しての中堅、ベテラン層の教員の助言や意見交換の場となった。 肯定的評価 教：68％。 （△） イ．設定面談時や人事面談時に授業見学時に経験年数に応じて府や学校として求められる職層を伝達した。 肯定的評価 教：47％。 （△）